

第1次審査通過事例

NPO法人、自主防犯団体、学校（PTA）、企業の連携による効果的なスクールガードの実施



共働き世帯の増加している佐倉市ユウカリが丘地区において、子供達の下校時の安全を見守るため、地域の防犯活動に取り組むNPOと企業、学校（PTA）、自主防犯団体が連携して、きめ細やかなスクールガードの実施や犯罪情報の共有、危険マップの作成、クリーン大作戦等に取り組んでいます。

孤独死ゼロ作戦

高齢化率38%の松戸市常盤平団地において取り組まれてきた「孤独死ゼロ作戦」を全国的に普及していくため、10年前から孤独死防止対策の推進に取り組んできた団地自治会と団地社協が母体となりNPO法人を立ち上げ、講師の派遣や、研修会の実施など8つの事業に取り組んでいます。



間伐材を通じて、関わる全ての人々が幸せになる仕組み

間伐材から製作した玩具を恵まれない子供たちへプレゼントしていた企業と、山武市で里山保全に取り組むNPOが連携して、新たな玩具や製品を開発。入浴グッズの包装作業を障害者施設に委託し、作業に応じた工賃を支払うことにより、間伐材の利用促進と障害者の工賃アップに繋がっています。



高根台つどいの家「ユニバーサル就労」の取組

様々な事情から、働く事に困難を抱えている人々が、その特性やニーズに合わせて働けるよう、障害者やニート等の就労支援に取り組むNPOと、企業、社会福祉法人とが連携して、必要な支援を得ながら社会参加できるシステム＝「ユニバーサル就労」に取り組んでいます。



みんなでつくる第2回七夕飾り歴史をつなぎ～街中をつなぎ～人をつなぐ

人口が減少傾向にあり、商店街の衰退が進む印西市のJR木下駅周辺の活性化と住民の交流促進のため、地域活性化に取り組んでいるNPOと商店街、幼稚園、小学校、老人クラブ等が連携して、住民の手作りによる七夕飾りを駅の自由通路に設置しました。



災害ボランティアと地域の自治会が連携した1000人規模の防災訓練

災害時に備え、住民それぞれに「支え合い、助け合い」の実感を得てもらおうと、自助共助による防災に取り組むNPOと自治会とが連携して、テントやトイレの設営、応急救護訓練など、住民参加型の実践的な防災訓練を実施しました。



「緑のバトン」をつなごう

子供達が環境問題やエコ活動に興味を持つきっかけとなるよう、環境保全に取り組む大学生を中心としたNPOが企業の協力を得て、CO2削減に賛同するメンバーを集めると苗木が貰えるシステム＝「CO2ダイエット宣言」を活用した、小学校での環境に関する授業や植樹に取り組んでいます。



第4回全国高校生金融経済クイズ選手権エコノミクス甲子園 千葉大会

これから社会に羽ばたく若年層にとって必要不可欠である金融経済教育について、エンターテインメント性を持たせながら触れるきっかけを提供していくため、金融知力の普及に取り組むNPOと、金融機関とが連携し、全国規模の高校生向けクイズ大会の予選となる地方大会を実施しています。



「住民一人一貢献」を合言葉に、市民と共にまちづくりをする企業の140の取組

高齢化や環境問題などの様々な課題を抱えている一方、市民活動団体間の連携の少なかった九十九里地域において、企業が民間のまちづくりサポートセンターを設立・運営し、団体間の情報共有の場を提供するとともに、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。



アリオ蘇我「学びと遊びのワーククラブ」

昔遊び体験を通じて、親子の絆を深めるとともに、市民活動をより身近に感じてもらうため、大型ショッピングモールを運営する企業と、市民活動を支援しているNPOが連携して、モール内のイベントスペースを活用して市民活動団体による子供向けの工作教室を開催しています。



第1回 ちばコラボ大賞

連携事例の紹介

県内には、福祉や環境、子育て、まちづくりなどのさまざまな分野で、企業や学校、民間団体等とNPO（市民活動団体）とが連携して、地域の課題解決に取り組むことで、成果をあげている事例がたくさんあります。

県では、そのような連携事例の中から、他の模範となるような先駆的な事例を知事表彰し、連携の効果や手法を県民の皆様にお知らせすることにより、連携による地域づくりの促進を図るため、新たに「ちばコラボ大賞」を創設しました。

第1回目となる23年度は、県内各地から13件の御応募をいただき、審査の結果、3件を表彰事例に決定しましたので御紹介します。



スケジュール 平成22年度

6月～ 7月 連携事例の募集
8月～ 9月 県事務局による一次審査
10月～11月 審査委員による二次審査
12月 表彰式

※ 23年度の募集も、6月頃から開始する予定です。

第1回ちばコラボ大賞 連携事例紹介リーフレット

平成23年3月

編集・発行

千葉県環境生活部県民活動・文化課

〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1
TEL 043-223-4133 / FAX 043-221-5858
Email npo-zigyuu@mz.pref.chiba.lg.jp

千葉県ホームページ 「ちばコラボ大賞」

その他、詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kkbunka/collabo/index.html>

千葉県環境生活部県民活動・文化課



千葉県マスコット
キャラクター
「チーバくん」

表彰式

12月に千葉市内のホテルで行われた表彰式には、NPOや企業、学校、各種民間団体関係者、報道機関を始めとする90名の皆様に御来場いただきました。

開会にあたって、知事からは、「皆様の力をお借りして、これからも元気な千葉県を、皆様と共に作り上げていきたいと思えます。」とのメッセージが送られました。

式典では、早川審査委員長から講評を賜った後、知事から受賞者の皆様に賞状が手渡されたほか、受賞者の皆様による表彰事例の発表や、記念講演等が行われました。



知事を囲んで記念撮影

審査委員長からの講評（概要）



千葉県社会福祉協議会
前会長
早川 恒雄氏

ちばコラボ大賞を受賞された皆様、おめでとうございます。審査に当たっては、地域課題の把握や目的的確さ、取組の先駆性、連携度、相乗効果や発展性などの観点から、総合的に評価いたしました。

応募いただいた13事例はいずれも、地域の課題が的確にとらえられており、その解決に資する取組として高く評価されるものですが、評価を分けた大きな要因は、この賞の名称にも使われている「コラボレーション」、つまり団体同士の「連携・協働」の観点です。

両者がお互いの特性を活かしながら「連携・協働」した成果が、地域に生み出されていることに特に注目し、3事例を選考いたしました。

これからも、地域社会の活性化と発展のために、引き続き御活躍されることを祈念しております。

表彰事例1

環境 | 市原市

コスモの森「学校の環境教育支援プロジェクト」

✓ コスモ石油株式会社千葉製油所 ✓ 特定非営利活動法人千葉自然学校

千葉県は豊かな自然環境に恵まれた地域であり、その自然との共生の中で、多くの人々が里山を育ててきました。しかし現在では、都市部はもとより、農村部においても、住む人と森とのつながりが感じにくい環境にあります。

そんな中、「地域との共生」をテーマに里山を借り受け、その保全活動に取り組むこととなった企業。地域との共生とは、具体的に何をすれば良いのか悩み、県内で自然体験活動を展開しているNPOに相談しました。その結果、企業が保全する里山「コスモの森」を活用した、小学校での環境教育の支援活動に取り組むこととなりました。

この取組の大きなポイントは、年間を通じた継続的なプログ



ラムを通じて、子供達が、里山での非日常の体験を、学校や家庭、地域での日常生活へと結びつけやすくなる仕掛けになっていることです。

具体的には、春・夏・秋の里山での体験学習と、学校での事前・事後学習の一連のプログラムによって、子供達は、季節によって移り変わる自然を豊かな感性で感じ、本物の知識として学んだ上で、「自然を守るために、自分ができることは何だろう？」を考え、「テレビゲームをする時間を減らす」「割り箸を使わない」等の、日常的具体的な目標を持つことができます。

実施に当たって、企業は、教育委員会と協議して、参加する小学校と学年を選定しています。NPOは、林業の専門家等と連携して、環境教育のプログラムを作成しています。フィールドとなる里山の整備は両者で行い、年に2回は、その家族も参加してのバーベキュー等を交えたイベント型の整備を行うことで、スタッフ間の交流を深めています。

企業が県から里山を借り受ける協定は、3年目となる23年3月で一旦終了となりますが、両者は、今後もこの取組を継続し、更に発展させていきたいと考えています。

表彰事例2

まちづくり | 市川市

市川市における安全で安心なまちづくりのための耐震診断

✓ 東京ベイ信用金庫 ✓ 県立市川工業高等学校 ✓ NPO法人住まいのサポートセンター

市川市は、昭和後期に東京のベッドタウンとして開発が進んだ都市です。そのため、耐震化の済んでいない木造住宅が多く残り、また、独居老人世帯が多く暮らす地域でもあります。

その市川市平田町で、生徒による耐震診断ボランティアに取り組んでいる工業高校と、家具の転倒防止等の「住まい」に関する相談会等を実施しているNPOとが、地元信用金庫からの声かけにより連携。近隣にありながら、それぞれ個々に活動していた三者が連携することにより、お互いが不足している部分を補うとともに、活動の幅を更に広げていこうと考えたのです。

取組は、NPOが高校へ出向き、住まいの選び方や建て方、耐震診断に関する授業を定期的に行うほか、昨年度は、高校が作成したデータを用いてNPOが実施した相談会の参加者38名に、生徒が行うインターネットによる簡易耐震診断を紹介。その中から、更に希望者には、一級建築士の資格を持つNPOスタッフと高校生が、実際に現地へ赴いて耐震化工事の計画までを行う出張耐震診断を行っています。また、資金面での相談は信用金庫を紹介し、リフォームローン等で対応しています。



取組の中で、人生の先輩でもあるNPOは、生徒に対し、難しい専門用語等を使わずに、住民に分かり易く伝えるための説明の仕方や、社会人としての対応方法なども教えています。生徒にとって、NPOと連携することは、授業で得た知識を実践できるだけでなく、人間的な成長も促される機会となっているのです。

また、信用金庫は、顧客に対し両者の活動を紹介しているほか、高校とNPOの調整や、町会との連携促進等、全体をコーディネートする役割を担っています。

22年7月、高校と町会、市は、生徒の耐震診断に基づく町の避難路の設定など、生徒が住民の災害時支援を行う「安心・安全なモデル地域づくり活動に関する協定」を締結。取組は全市へと広がりを見せています。

表彰事例3

医療・福祉 | 東金市

九十九里地域医療夏期セミナー2010

✓ 東金商工会議所 ✓ 城西国際大学 ✓ NPO法人地域医療を育てる会

九十九里地域は、県内でも特に医師不足の深刻な地域です。そうした地域医療の課題を、医療機関や行政に任せきりにするのではなく、住民自らの手で地域医療を育てていかなければならないとの思いから、5年前にNPOが設立され、東金病院を舞台としてさまざまな活動が展開されてきました。

そんな中、21年度から、次代の医療を担う人材を育てるために、医学生や薬学生など、多職種の学生が一堂に会して地域医療の現状と課題を学ぶ1泊2日のセミナーが開催されることとなりました。



セミナーでは、NPOと病院だけでなく、地域に根差した医療従事者の育成を目指す大学や、商工会議所をはじめ、地域の様々

な主体が「フィールドワーク」の訪問先として連携しています。

フィールドワークでは、参加者が多職種混成のチームを組み、自職種では目にすることがない様々な医療現場や福祉施設等を見学したり、患者とその家族、医療従事者等にヒアリングを行うことで、自職種とは異なる他職種のものの見方や、保健・福祉と医療との一体的な連携の重要性を学びます。また、その後のフィールドワーク発表会には、一般市民がオブザーバーとして参加することで、参加者と地域住民が交流しながら、地域医療の課題を共有することができました。

実施に当たっては、NPOと病院がセミナーを企画・運営し、大学は、セミナーを授業の一環として位置づけるとともに、教員も運営スタッフとして参加しています。普段、医療と関わりの少ない商工会議所も、セミナーの中で地域の魅力を紹介するツアーを開催し、参加者が将来、九十九里地域の医療に従事してもらえるようアピールしました。

地域医療の崩壊という緊急性の高い課題に対して、今後、このセミナーが全国的なモデルケースとなっていくことが期待されます。

